

一般廃棄物処理の現状と課題

最後の埋立処分場

埋立量は減少していますが、現在使用している浮島廃棄物埋立処分場は、およそ40年後（平成60年度）には一杯となり、その後市内に新たな埋立処分場を確保することは困難な状況です。

依然として高水準のごみ量

ごみ減量化については一定の成果が得られていますが、空き缶や空きびん等の資源物も含めた総排出量は依然として高水準で推移し、発生・排出抑制が進んでいない状況です。

伸び悩む資源化量

資源物の量は大きく増加し、資源集団回収はリサイクルに大きく貢献していますが、その他プラスチックや紙類の分別収集の遅れなどによって、資源化量は伸び悩んでいます。

多額のごみ処理費用

事業系ごみの許可業者収集への移行などにより、ここ数年減少傾向にありますが、分別収集の拡大などで費用は年間約170億円となっており、効率的な廃棄物処理事業を行う必要があります。

情報の共有化の推進

環境保全に向けたボランティアな活動が広がりつつありますが、ごみ減量など活動の成果が見えにくく、活動意欲の高揚に結びついていないため、情報を積極的に提供し、環境学習の機会を広げていく必要があります。

あなたの **チャレンジ** が **重要** です!

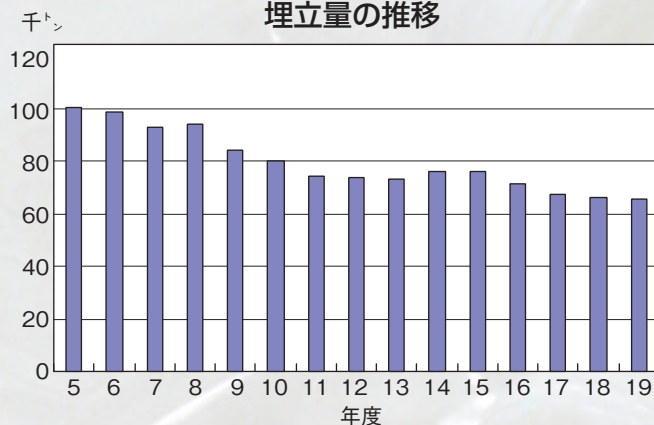
今のペースでごみを出し続けると、埋立処分場は、およそ40年後に一杯になってしまいます。

「物を大切にし、ごみをできるだけ出さないこと」を今からはじめましょう。

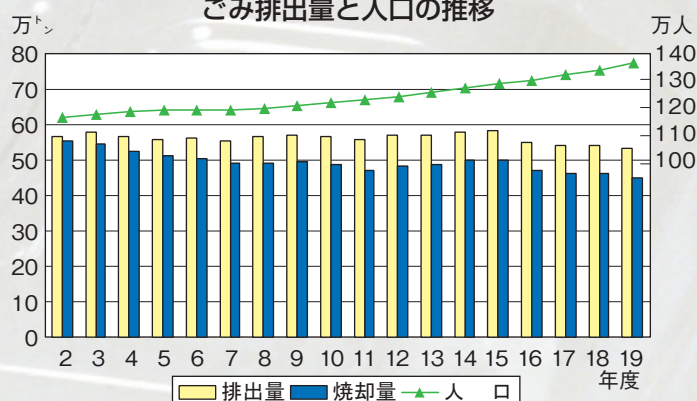


キレイクン

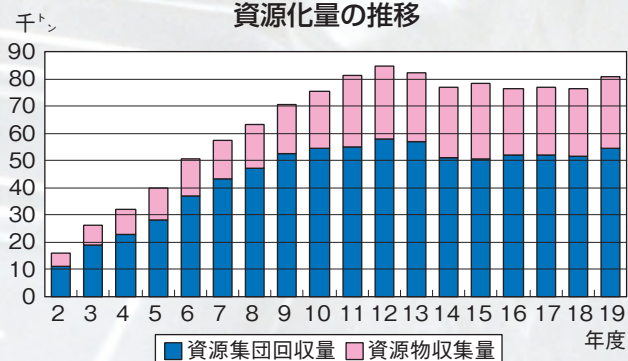
埋立量の推移



ごみ排出量と人口の推移



資源化量の推移



ごみ処理費用の推移

